

資料名「本校生徒の奉仕活動風景」
テーマ（自他を尊重し、互いに高めあう態度を養うための工夫）

学校名（ 広島県立河内高等学校 ）

- 1 学 年 第1学年
- 2 主題名 コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立 2－（5）
- 3 ねらい 他者の意見を尊重する態度を養うとともに、ルールやマナーについて考えを深めることを通じて、人間としてよりよく生きようとする態度を養う。
- 4 資料名 「本校生徒の奉仕活動風景」（自作写真資料）
- 5 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	留意点（☆評価の観点）
導 入	1 前回の活動を振り返る。	○ それぞれのグループのオリジナルストーリーはどんなところが良かっただろうか。 ・ おもしろかった。・まとまっていた。 ・ 全員が発表していた。 ・ グループごとにテーマがあった。	○ 意欲的に取り組ませるために、前回の授業の良かった点についてふれる。 ・ 前向きに取り組んでいた。 ・ それぞれが、いろいろなおもしろさを考えていた。
展 開	2 写真や絵を使ってグループでオリジナルストーリーを考える。 3 ストーリーの発表の準備をする。	○ 今回の題材を紹介する。 写真とイラストを組み合わせ、オリジナルストーリーを作ろう ルール：① 5枚以上の写真や絵を使う。② 心美ちゃん、体健くんを必ず登場させる。③ 必ず一人一人が意見を出す。 ○ はじめにルールを提示しておく。（板書） ○ 配布物(写真とイラスト, 原稿用紙, 黒・赤マジック) ○ 話し合いが進まない場合は、アドバイスをする。 ・ 役割を決めさせる ・ 心美ちゃん、体健くんの立場を決めさせるなど ○ 早く終わったグループにはそのストーリーのテーマを考えさせる。	
	4 いくつかのグループが、オリジナルストーリーを発表し、他のグループの考えたストーリーに触れる。	○ 自分の考えを述べ、他の人の考えを聞くことには、どんな良いことがあるだろうか。 ・ 他の人を 理解 することができる。 ・ 自分には 発想 を知ることができる。 ・ みんなが思う良いことを 共有 できる。 ◎ 他のグループのストーリーを聞いてどんなことを感じただろうか。 ・ おもしろかった。 ・ 発表が工夫されていた。 ・ 自分に無い発想だった。	○ 理解しやすくするために、具体的な例を挙げて話す。 ○ 他者評価によって、自己肯定感が高まるように、肯定的な発言を導く。 ☆ 自分の考えを述べ、他者の考えを認めることができる。（発表・観察）
終 末	5 振り返りシートに、考えたことや感じたことを整理する。	○ 感じたままを書き出してみよう。 ・ グループ内で意見をまとめるのは、大変だった。 ・ 発表した時に、真剣に聞いてもらえてうれしかった。	○ 整理できるように、十分な時間を設ける。

(注) 「心美ちゃん」「体健くん」：河内高等学校のマスコットキャラクター

活用に向けたポイント

1 生徒の実態

数年前の荒れが目立つ状況はなくなり、部活動や学校行事に積極的に取り組む生徒が増えてきた。

しかし、他者の思いを読み取ることが苦手で、望ましい人間関係を築くことができない生徒、ルールやマナーを自ら守ることができない生徒が少なからずいるため、考える機会、表現する機会、他者の思いに触れる機会を増やしていく必要がある。

2 教材開発及び指導過程の工夫

- ・ 前時に、絵本の挿絵を使って同様の活動を行った。
- ・ 他者の意見を尊重する態度を養うためにグループで取り組ませた。
- ・ 遊び心を持って、自由に発想できるように、空き缶が宙を舞っている写真を題材に加えた。
- ・ 素直な気持ちを出せるように、校訓から生まれたマスコットキャラクター「心美ちゃん」「体健くん」に思いを代弁させるようにした。

また、事前の取組みとして、表現することに対する壁を取り除くために、全校写真コンテストや短歌コンテスト、写生大会、写真コンテストの優秀作を元にしたストーリー作りなどを行っている。

3 展開上の工夫

- ・ より豊かな発想のために、活動のルールは最小限にした。
- ・ 活動中に、話合いが軌道に乗らない場合には、少しずつアドバイスを加えた。

4 生徒の反応

- ・ 題材、活動に対して抵抗感が少なく、発表も意欲的に行った。
- ・ 導入に使った絵本の効果もあって、物や場所を擬人化して発現させるなどの表現ができていた。
- ・ ストーリーを考えてから写真を選ぶのではなく、写真を決めた後で、ストーリーをまとめるグループもいて、想像していた以上に柔軟で自由な発想が生まれた。
- ・ グループ内で自然に役割分担ができ、発表も全員で行った。
- ・ 数日後、登校途中に、「野球部がきれいにしてくれたのに」と言いながら、友人が空き缶を捨てようとしたのをやめさせた生徒がいたと、来校された方から伺った。このことから、規範意識の向上にも一定の効果があったと思われる。

5 活用に当たってのポイント

活動に慣れさせるために、前時に絵本の挿絵を使って、ストーリーを作り、発表させた。

今回は自作資料を活用し、登校中の風景や、同級生や先輩の写真を用いたことで、生徒の所属意識が高まった。

予定していた時間を超えてまで真剣に話し合う姿、他のグループの発表を熱心に聴く姿などから、効果的な取組であったと言えるが、題材に使用した写真を生徒自身に撮影させていれば、もっと意欲的に取り組んだと考えられる。

他者評価によって自己肯定感を高めるために、他のグループ発表に対して感想を述べる時間を十分に確保すべきである。







自作教材（写真コンテストの優秀作を元にしたセリフづくり）

心美ちゃんは、ひどく落ち込んでいました。
何をやっても、うまくいきません。
勉強に集中して取り組むことができず、
考査の結果は最悪でした。
考査後に、陸上の大会に出場したけれど、
結果はまさかの予選敗退でした。
心配して声をかけたお母さんに、
「うるさいな。ほっといてよ！」
と怒鳴って、家を飛び出してしまいました。
「お母さんに悪いことしちゃった」
と思いながら、道を歩いていると、
向こうの空に虹が架かっていました。
心美ちゃんは、つぶやきました。



体健くんは高校3年生。野球部のキャプテンで、ポジションはショート。
昨年の秋の大会、9回裏、勝利を目前にして、守備でミスをしてしまい、サヨナラ
負けとなってしまった。
体健くんは、くやしさを胸に、冬場も休まず練習に励んだ。
愛用のグローブは、体健くんを可愛がってくれたおじいさんが、高校入学のお祝い
に買ってくれたものだった。
おじいさんとの、勝利をプレゼントするという約束を果たすことができないまま、おじい
さんは去年の12月に、亡くなってしまった。
夏が来て、最後の大会を迎えた。
守備について体健くん。グローブをじっと見
つめていると、グローブが体健くん、静か
に語りかけてきた。

